



みんきょう便り 第36号

みんきょう・・・三島町民生児童委員協議会の略です

歳末たすけあい運動へのご協力 ありがとうございました

師走、今年も歳末たすけあい募金の時期となりました。私にとっては、民生児童委員となって初仕事でもあります。緊張と不安でいっぱいでした。コロナ禍での訪問で、玄関先でのお願いになってしましましたが、みなさん快く応じてくださいました。コロナが一日でも早く収束し、地域の方々と笑顔でお話しきれるよう願うばかりです。

皆様の温かいご協力ありがとうございました。



報告者：飯塚 敦子
【大石田地区担当】



三島町民生児童委員協議会小松会長が
社会福祉法人みしま「桐寿苑」を訪れ、
行事助成金を贈呈いたしました。

【募金活動・配分方法について】

三島町では、歳末たすけあい募金運動を民生児童委員協議会が中心となって行っています。地区によっては行政区長さんのご協力をいただき、地区住民の皆さんのご理解のもと、地区運営費・区費と併せて募金をしていただいているところもあります。

皆様のご厚意・ご協力により集められた募金は、三島町民生児童委員協議会において、配分検討が行われ、特別養護老人ホーム桐寿苑への行事助成事業や【地域ふれあい配分事業】へと配分されます。

【地域ふれあい配分事業とは】

この事業は、高齢者や支援を必要とする方々が特に不安を持ちやすい冬の時期に実施する事業です。高齢者や障がい者、子どもたちなど世代を超えた交流会や生活支援活動（除雪支援・友愛訪問・配食）など住民の皆さんのが住み慣れた地域で安心して暮らせるような、地域のふれあい・支え合い活動に対して、その活動費の一部を歳末たすけあい募金から助成しています。

コロナ禍で集いや催しの自粛が続く中での数少ない交流の機会として地域の皆さんに喜ばれています。各活動の報告からも分かります。（P①、④～⑤で様々な取り組みを報告しています。）

民生児童委員会活動日誌

降雪期一斉友愛訪問

2月12日、雪が少なくて春を感じられる陽気なのですが、まだ風が冷たいなか、一斉訪問として湯田委員と18軒ほど訪問しました。地域ふれあい配分事業として黒砂糖とチラシを持参し、皆さんから大変好評をいただきました。

一人暮らしで頑張っていらっしゃる方や体調の不安がある方など、何か困ったことはないか・お体の具合はどうかと近況を尋ねながら、玄関先で挨拶をしました。

コロナも少しずつ減っていますが油断はできません。感染状況に応じた対策は継続しながらも、マスクを外してゆっくり話が出来るように願っています。

何かありましたらいつでも声を掛けてください。今後とも宜しくお願ひします。

報告者：栗城 ゆみ子【宮下地区担当】

ゆいはーと⑥



認知症サポーター養成講座を受講しました



報告者：五十嵐 修一
(大谷地区)

「認知症」は誰にでも起こる深刻な問題なのだと改めて実感しました。三島町は高齢化が進んでおり、私たちは民生児童委員だけでなく、家族や隣近所、関係機関や団体など、町全体で考えなければならない重要課題の一つです。



認知症にならなければそれに越したことは無いのですが、2025年には5人に一人が認知症になると予想されています。認知症の方と関わるようになった場合、大事なことは認知症を正しく理解することと、認知症という病気を抱えた「人」への理解であるという事です。そういったことをより深く理解することで、認知症に対する偏見や差別がなくなると思います。

グループワークでは、認知症の方への接し方や対応の仕方など、具体例を織り交ぜながら討議を行うことができ、実りある時間になりました。

認知症サポーターとは???

何か特別なことをする人ではありません。認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を温かく見守る支援者として自分のできる範囲で活動します。

自分自身の問題と認識し、友人や家族に学んだ知識を伝えること、認知症の人やその家族の気持ちを理解しようと努めることもサポーターの活動です。



◆ 編集後記 ◆

庭には春を待つ福寿草やスイセン、チューリップなどの芽を見かける今日この頃になりましたが、朝晩の冷え込みは身に沁みます。皆さんも体調には十分気を付けてください。

県内のコロナ感染は減少傾向にありますが、収束には至っていません。うがい・手洗い・マスクは続けていきたいものです。新しい委員とともに町の皆様の支えとなるように活動していきたいと思いますので、お気軽に声を掛けてください。

広報委員：五十嵐 スミ子 【桧原地区担当】

発行：三島町民生児童委員協議会
<広報委員> 五十嵐 スミ子
五十嵐 宏子
五十嵐 信一
事務局／三島町社会福祉協議会

